

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	さいたまけんりつうらわこうとうがっこう				②所在都道府県	埼玉県
26～30	①学校名	埼玉県立浦和高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計		
普通科	406	365	367		1138	普通科 1138人	
⑥研究開発構想名	新しい価値を創造し、世界のどこかを支えるグローバルリーダーの育成						
⑦研究開発の概要	これからの世界が直面する世界的な課題を総合的に研究することで、幅広い教養と深い洞察力を持った知徳体のバランスのとれたリーダーを育成するためのカリキュラム開発。これまで連携してきた大学、研究機関、海外姉妹校等との連携を強化・充実することで、さらに新しい価値を生み出すことができる人材の育成を図る。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>「世界のどこかを支える」ことができる、高い次元で知徳体のバランスのとれた総合力を持ったグローバルリーダーを育成するためのカリキュラム開発を行う。グローバルな場でリーダーシップを発揮するために必要な「共感力」「チャレンジ精神」「創造的思考力」を醸成し、新たな価値を創造できる人材の育成を図る。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>生徒は「尚文昌武」の校訓のもと勉強・学校行事・部活動に全力で挑戦し切磋琢磨することで、次代を担うリーダーとしての資質を身に付けてきた。今後さらにグローバルリーダーを育成するためには、地球規模の解決を目指す課題研究を設定し、国内外の大学等へ積極的に飛び出していく機会を増加させることで、幅広い高い教養とともに、多様で異質な他者を理解し、新たな価値を創造できる人材育成が可能になる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページ（英語版も含む）による普及</li> <li>・連携大学・海外姉妹校の広報活動を活用した普及</li> <li>・報道機関（マスメディア）の活用による普及</li> <li>・首都圏進学校研究会（日比谷、西、県立千葉、湘南、浦和）のネットワークを活用した情報交換と成果の普及</li> <li>・成果報告会を通しての普及</li> </ul>					
		⑧-2課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>(a) 「人類の共存」(b) 「持続可能な地球環境」(c) 「普遍的価値の探求」の国際的な社会課題を「地球温暖化」「自然・代替エネルギー」「これからの都市設計」「エネルギー安全保障」「外交安全保障」「南北問題」「国際的平和の祭典」「古典の中の普遍的価値観と未来社会の構築」、「民主主義と正義」などの具体的なテーマをとおして研究する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>(i) 「総合的な学習の時間」を主たるフィールドとして、少人数のゼミ形式による課題研究、論文作成、優秀論文集の作成と研究発表の実施。連携する大学の教員からの専門分野に関する指導・助言、国内外の大学に在籍する卒業生を活用したピアサポートの実施。連携する国際機関の専門家との共同研究による新しい価値の創造、問題解決方法の開発。</p> <p>【具体的実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京大学との全学的な連携の下、課題研究テーマに関する研究室に在籍する卒業生によるピアサポートを活用した課題研究 (a) (b) (c)</li> <li>・ケンブリッジ大学に在籍する卒業生と、ICTを活用したチュータリングを活用した研究 (a) (b)</li> </ul>				

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京大学と連携し、ボーイング社の教育プログラムに参加し、都市工学、環境工学の研究(a) (b)</li> <li>・ 国際協力機構 田中明彦理事長（本校卒業生）と連携や海外青年協力隊員として派遣されている本校職員と開発教育に関する研究(a) (b)</li> <li>・ 日本アスペン研究所と連携した「古典」の研究による普遍的価値の探求(c)</li> </ul> <p>(ii) 東京大学と連携し、各教科における協調学習による活動的・構成的・対話的な知的探求、問題解決プログラムの研究開発(c)</p> <p>(iii) 海外姉妹校ウィットギフト校との人的交流による、国際バカロレアの教育理念を踏まえた知的探求プログラムの研究開発(a) (b) (c)</p> <p>(iv) 課題研究に関するフィールドワーク・研修を含むウィットギフト校への短期派遣(a) (b) (c)</p> <p>(v) 米国ミシガン大学のサマーセミナーに参加し、課題研究に関連する講義の受講、フィールドワーク、ディスカッション、プレゼンテーションをとおして世界の高校生との意見交換することで多様な価値観を理解し、新たな価値を創造する(a) (b) (c)</p> <p><b>(2) 必要となる教育課程の特例等</b> 教育課程の特例は必要としない。</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>		<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々の授業・行事・部活動を通して、集団力を活用しながら無理難題に挑戦する知・徳・体バランスの取れた人間を育成する。併せて思考力・表現力・問題解決力を高める。</li> <li>・ 国内外で活躍する卒業生による講演で「身近なキャリアモデル」に触れる機会の提供。</li> <li>・ 世界で活躍するグローバルリーダーによる講演、質疑、交流をとおして幅広い視野、高い志、夢を育成する。</li> <li>・ アンケート等による生徒意識変容を検証・評価する。</li> </ul> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b> 教育課程の特例は必要としない</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姉妹校である英国のパブリックスクール、ウィットギフト校への長期派遣の拡大、人的交流による関係強化</li> <li>・ 姉妹校である英国のパブリックスクール、ウィットギフト校への部活動単位の短期派遣をとおして、スポーツ、文化、芸術などの分野で多様な価値観に触れ、広い視野に立って培われる教養を育てる。また、隔年で秋に約20人の同校生徒を受け入れ、多様な価値観に触れる機会を多くの本校生徒に提供。</li> <li>・ 21世紀型学力を高めるためのタブレット等IT機器の整備</li> <li>・ 「科学の甲子園全国大会」に参加、「サイエンスオリンピック」への出場に挑戦する。</li> <li>・ 高等学校英語教育研究会主催の高校生英語ディベートコンテストに参加。</li> <li>・ さいたま市主催の「国際ステューデント・プレゼンテーション」に参加。</li> </ul> <p><b>幹事校としての取組（該当する場合のみ記入）</b></p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>同窓会が「公益法人県立浦和高等学校同窓会奨学財団」を設立。グローバルリーダー育成のために、在校生・卒業生の海外への長期留学に対し返済義務のない助成金を交付し支援するという全国でも例のない取組を始動。</p>

ふりがな	さいたまけんりつうらわこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	埼玉県立浦和高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	1120人
	SGH対象生徒以外:	人	824人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 現在の73.6%から30年度には100%の生徒が自主的に社会貢献活動、自己研鑽活動に取り組むことを目指す。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	1人
	SGH対象生徒以外:	0人	1人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 学校が提供する留学及び海外研修プログラム以外については、学校生活が多忙なため大幅な増加は想定していない。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	—	73%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: ある全国調査結果39.3%のおよそ2倍を目標値とし、段階的に増加させる。(今後、現状値を把握し再設定する。)									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:	5人	5人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 結果としての大会入賞は好ましいが、生徒の自主性を尊重し、大幅な増加は想定していない。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	35%
	SGH対象生徒以外:	15%	15%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 現状のCEFR B2(132人)のB1への向上を目標値とし、段階的に増加させる。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		63%	85%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 生徒の進路希望実現への努力及び生徒が志望する大学の今後の国際化を鑑み、100%を目標値とする。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		1人	2人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 国の目指す指標(10%)の1/3(15歳~18歳)を目標値とし、平均的に増加させる。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 課題研究は間接的には全ての生徒に影響を与えると考え。(今後、現状値を把握し再設定する)								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	36人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: 国の目指す10%を目標値とし、5年間で平均的に増加させる。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	23人	25人	人	人	人	人	人	35人
目標設定の考え方: ウィットギフト校やミシガン大学等の派遣の充実によって、増加を図る。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	40人	80人	人	人	人	人	人	160人
目標設定の考え方: 東京大学との連携事業(ボーイングプログラム)等を充実させ、増加を図る。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	2校	2校	校	校	校	校	校	2校
目標設定の考え方: 現在の連携校との関係強化と安定化を目標とする。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	25人	37人	人	人	人	人	人	60人
目標設定の考え方: 東京大学との連携を中心に60人を目標値とし、平成27年度から4年間で平均的に増加させる。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	2人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 国際協力機構等との連携を中心に10人を目標値とし、平成27年度から4年間で平均的に増加させる。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	5人	5人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 結果的な参加者数の増加は好ましいが、生徒の自主性を尊重し、大幅な増加は想定しない。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	1人	3人	人	人	人	人	人	3人
目標設定の考え方: 帰国・学校の教育課程上、大幅な外国人受入れ者数の増加は想定しない。(この他、隔年で海外姉妹校から20人の短期留学を受入れ)								
先進校としての研究発表回数								
h	1回	1回	回	回	回	回	回	1回
目標設定の考え方: 発表回数は維持し、発表内容を充実させる。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 平成26年度から一部整備、平成27年度から整備される構想。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	1,140	1,138					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							